

経験した仕事と比べて、 新しい仕事を理解する。

既知の経験との比較から、小さな実践へ

説明は聞いた。

でも、これまでの仕事と
何が違うのだろう。

本人が経験している仕事を入口に、
違いを見比べ、一部分を試す。

管理職・育成担当者・研修担当者へ
14名のリーダー研修の観察から



説明用の架空場面。人物イラストはAI生成です。

比較で違いが見え、作成で理解が進んだ。

14名が参加したリーダー研修での、講師の観察を整理しています。

それまで：半年以上、取引先構成図の重要性を説明してきた。
必要性や、図を使った対話の進め方は十分に伝わっていなかった。

1 経験済みの会議と、目指す会議を比較

役割分担を起点にする会議は、参加者にとって経験済みだった。

2 同じ紙面で、起点と問いの違いを確認

比較によって、二つの仕事の進め方の違いが理解され始めた。

3 自分で構成図を描き、理解がさらに進む

知らないことや判断したいことが具体的になり、対話が見えてきた。

企業・個人が特定される情報は省略しています。

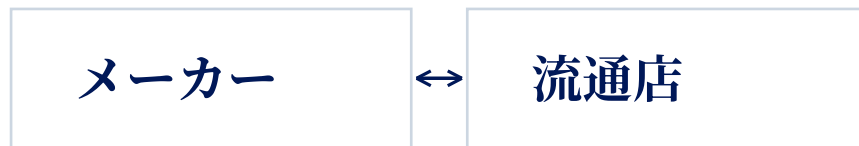
理解度の測定や、比較群を置いた効果検証ではありません。

同じ会議でも、起点が変わると問いが変わる。

取引先構成とは、どの顧客と、どのような仕事をしているかという全体の組合せです。

経験済みの進め方

各社の役割から考える



会議で確かめる問い

メーカーは何をし、
流通店は何をするか。

今回、理解したい進め方

共有する目的から考える



取引先構成をよくするために、
何が必要か。

右側でも役割分担は必要です。目的に照らして、必要な仕事と役割を考えます。

経験した仕事が、違いをつかむ手掛かりになる。

左側には、自分たちが行ってきた会議を思い浮かべられるという特徴がありました。



1 自分の経験と照らす

どの会議に、心当たりがあるか。

2 対応する箇所を見る

何を起点にし、何を問うか。

3 変える箇所をつかむ

次の会議では、どの問いを変えるか。

経験済みでも、その仕事の特徴を自覚しているとは限りません。
比較によって、自分の仕事の特徴も見えてくる可能性があります。

自分で描くと、対話の中身が見えてくる。

比較で捉えた「目的から考える仕事」を、構成図の作成を通じて具体的にする。

この位置に置く根拠は？



情報を確かめる

何を根拠に、ここに置くのか。

構成を考える

この組合せで、よいのだろうか。

次の対話を考える

何を相手と確かめたいのか。

問い・人物場面は説明用の例です。参加者の発言の引用や当日の再現ではありません。

何が違うかを見分ける経験と、何のために使うかを確かめる経験がつながる。

本人の経験に合わせて、比較する仕事を選ぶ。

以下は説明用の架空例です。左側を本人が経験しているか、最初に確かめます。

経験のある仕事	理解したい仕事	その後、小さく試すこと
部下との面談 進捗や期日確かめる。	本人の判断の理由を一緒に確かめる。	最近の一件について、見た情報と選んだ理由を一緒に確かめる。
仕事の引継ぎ 手順に沿って進め方を伝える。	条件が違うときに、どこで判断が変わるか一緒に確かめる。	条件が一つ違う例を示し、進め方を選んで理由を確かめる。
業務改善 担当ごとの作業を確認する。	仕事全体の流れと止まる箇所を確かめる。	実際の一件の受け渡しを並べ、待ちが生じた箇所を確認する。

各仕事には役割があります。目的に応じた使い分けや、組合せを考えるための比較です。

次の面談で、どの問いから始めるか。

架空例：部下が、いつも同僚に確認してから仕事を進めています。

今回確かめたいこと：本人が、何を根拠に進め方を判断しているか。

A 期日を確認する問い

いつまでに終わりますか。

B 判断の理由を確認する問い

どの情報を見て、
その進め方を選びましたか。

この目的なら、Bが直接つながります。期日の確認が目的なら、Aが役立ちます。

次に、実際の一件を一緒に確かめる

見ていた情報

選んだ進め方

まだ不明なこと

選んだ理由を確かめた後、本人の実際の仕事に結びつけます。

次の研修・面談に、三つのものを用意する。

既存の資料や最近の仕事から選べます。最初から長い記述を求める必要はありません。

1 本人が経験した仕事

会議の記録／いつもの資料／実際に行った一件

本人に心当たりがあるかを確かめる。

2 同じ箇所を見比べられるもの

目的／問い／判断材料／進め方を対応させた二つの例

同じ紙面に置き、どこが違うかを一緒に確かめる。

3 本人が一部分を試せるもの

途中の図／条件が違う一件／複数の進め方の候補

選ぶ・並べる・描くなど、本人が判断する場面をつくる。

試せる時間・情報・相談先を用意し、途中で説明や支援を加えます。

比較と説明を支える研究を、どう読むか。

図の対応箇所を、見比べやすく配置する

図の対応要素がそろって配置で、比較が速く正確になった実験です。
今回との接点は、対応箇所を見つけやすくする紙面の設計です。

Matlen et al. (2020). Spatial alignment facilitates visual comparison.
<https://doi.org/10.1037/xhp0000726>

事例を比較し、仕事の関係や原理を捉える

交渉課題で、事例を比較する学習が原理の理解や応用を支えました。
今回との接点は、本人が二つの仕事の対応と違いを確かめる活動です。

Gentner et al. (2003). Learning and transfer: A general role for analogical encoding.
<https://doi.org/10.1037/0022-0663.95.2.393>

違いを見つけた経験を、説明につなぐ

大学生が対照事例を分析した後に説明を受け、応用課題で理解を示しました。
今回との接点は、比較で気づいた違いと、説明を結びつけることです。

Schwartz & Bransford (1998). A Time for Telling.
https://doi.org/10.1207/s1532690xcil604_4

別の場面でも、選び方を確かめる。

見たときの納得に加えて、本人が新しい場面でどう判断するかを見ます。

1 見分ける

別の会議例でも、
起点や問いの違いを
指し示せるか。

2 選ぶ

目的に合う問いを選び、
理由を自分の言葉で
説明できるか。

3 試す

実際の一件で使い、
足りない情報や必要な
支援を挙げられるか。

今回の観察から、まだ確定できないこと

半年間の説明、比較、作成、講師の支援それぞれの寄与は、切り分けられていません。
この順序がいつも最適か、長期的な行動や業績が変わるかは、今後の確認が必要です。

前ページの研究も、今回の研修や手順全体の効果を直接検証したものではありません。本人の経験に合う比較を選び、小さく試した結果から、次の支援を考えます。

発行：リクエスト株式会社 | 資料・職場での活用についてのお問い合わせ